

眼形成・眼窩・涙道外科を受診している患者さんへ

当院では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会で倫理的観点及び科学的観点から中立的かつ公正に審査され、研究機関の長に認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。この研究へのご質問や研究に係る相談だけでなく、個人情報の開示を希望される場合、研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧を希望される場合は、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。研究計画書等は、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で閲覧が可能です。

記

研究課題名	コロナ禍前とコロナ禍における 18 歳以下の患者の眼窩骨折受傷原因の変化に関する調査
研究機関の長(試料・情報の管理責任者)	愛知医科大学病院 病院長 道勇学
研究責任者	眼形成・眼窩・涙道外科 (職名) 教授 (特任) (氏名) 高橋靖弘
研究の対象となる方	2017 年 3 月から 2023 年 4 月までに当科を受診した 18 歳以下の眼窩骨折の患者さん
研究期間	研究実施承認日 ~ 2024 年 3 月 31 日
研究目的及び利用方法	<p>〔研究目的〕</p> <p>眼窩骨折は眼部の鈍的外傷によって引き起こされます。受傷原因の傾向は年齢によって異なり、18 歳以下に関してはスポーツが最も多いです。2020 年 1 月から COVID-19 感染症が国内で流行し始め、2020 年 4 月に第 1 回目の緊急事態宣言が出されてから 2023 年 5 月に COVID-19 感染症が第 5 類感染症に移行するまで、国民には行動制限が強いられました。学生においても臨時休校や部活動の制限が強いられました。従って、眼窩骨折の受傷原因においてもコロナ禍前とコロナ禍では異なる可能性があるかと推測されます。</p> <p>〔利用方法〕</p> <p>診療情報の収集目的で、カルテを利用します。COVID-19 流行前の患者さんと COVID-19 流行中の患者さんの間で、眼窩骨折受傷原因を含む臨床データを比較します。</p> <p>〔外部への試料・情報の提供〕</p> <p>非該当</p> <p>〔外部への提供開始日〕</p> <p>非該当</p>
研究に用いる試料・情報の取得方法及び項目	<p>試料：非該当</p> <p>情報：診療録(カルテ)およびCT画像から、受傷原因、骨折位置、閉鎖型骨折における嵌頓組織、眼窩下神経麻痺の有無、術前眼球運動、および手術の有無に関する情報を収集</p>
提供する試料・情報を用いる学外の研究	非該当

責任者	
試料・情報を利用する学外の者	非該当
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2023年12月31日までに電話により下記問い合わせ先まで申し出てください。
外国への試料・情報の提供	非該当
問い合わせ先	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科 担当者:(職名)教授(特任) (氏名)高橋靖弘 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311(内線12314)